

編集後記

寒さのますますきびしくなる折から、時には医師・医学生の問題を考えてみていただくというリハビリテーション医学教育の特集をお送りする。医学的リハビリテーションの分野では、リハビリテーション一般の場合と同様に「物より人」であり、質の高い専門家がもっとも重要なことはいうまでもないが、それに関する情勢も急速に変わりつつある。一時は日本の医学的リハビリテーションの発展を妨げる最大の問題は理学療法士、作業療法士の不足であるというのがほとんど「きまり文句」のようにいわれていたが、国・公立短大や養成校の増設により、今や近い将来の供給過剰の可能性まで公然と語られるようにまでなっている。少なくとも量の問題から質の問題に重点が移りつつあるのが現状である。それにくらべて、相対的に立ち遅れが目立ってきたのがリハビリテーションに専従する医師の養成であり、また一般の医師全体へのリハビリテーションの知識の普及の遅れである。前者は卒後教育（研修）の問題であり、後者は卒前教育の問題でもあり、また継続教育（生涯教育）の問題でもある。

今回の特集は上田のイントロダクションの概観にはじまり、まず石神氏・他による卒前教育の実態調査の紹介、明石氏の卒前教育のカリキュラムの検討をお願いした。石神氏のは第3回日の調査として、過去10年余の動態

的变化をとらえており、また国・公・私立間の格差の指摘など、興味深い成績である。それにつづいて、入江、江藤、小田・他、米本、伊藤・他、土肥、緒方の各氏によりそれぞれの大学における卒後研修の実際を簡潔に紹介していただいた。ここにとりあげた大学以外にも新潟大、独協大はじめ多くの大学、また大学以外の病院・センター等で卒後研修が行われているが、それらは他の機会にゆずった。

それに続いて、岩倉氏にリハビリテーション医学会の専門医・認定医制の現状と将来を論じていただいた。他の医学分野に類のない二本立てのユニークな専門医制の成否は、リハビリテーション医学そのものの成否にもつながる重要な問題であり、その今後の動向は、医学以外の分野の方にも関心をもっていただきたいところである。

本号にはこのほか、大土井氏に巻頭言をいただいた。患者中心の医療はリハビリテーションとしては当然なことであるが、深く反省させられる点である。この他、本号には窪田氏・他と沖氏・他の研究と報告、河合氏のイギリスの特殊教育の紹介、築山氏・他と畑野氏による講座、齋藤氏の一頁講座など、多彩な内容が盛り込まれている。熟読をお願いしたい。

(上田 敏)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
砂 原 茂 一
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
岩 倉 博 光
江 口 壽 榮 夫
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
加 倉 井 周 一
小 島 蓉 子
斉 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
土 屋 和 夫
土 肥 豊
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
野 村 欽
長 谷 川 恒 雄
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
松 村 秩
三 島 博 信
矢 谷 令 子
米 本 恭 三
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第14巻 第2号)

1986年2月10日発行 (毎月1回10日発行)

発行 株式会社 医学書院

代表者 椿 孝雄

1部定価 1,650円 (配送料60円)

(年々め予約購読料 18,480円)
(送料弊社負担)

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5704

(担当: 山田・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 685-3131

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 409-8803

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1986, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複製・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。